

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（6）

赤石山脈（南アルプス）（3）南信州大鹿村

～ 足許でリニア工事、厳しい道路事情～

1. 近代登山の黎明 舞台となった大鹿村

令和元年度大鹿村の南アルプス開山式が同村大河原のウォルター・ウェストン碑前で執り行われた。明治25年（1892年）英国牧師ウォルター・ウェストンがこの地から赤石岳に登頂。これを以ってわが国アルピニズムの嚆矢とされる。村内でもこれに刺激を受けて登山の機運が生まれ、明治39年（1906年）に村民により「赤石会」が結成され、以来山を愛する活動が続けられた（大鹿村誌）。ウェストン碑はそのような同氏の功績を称えるため、村民有志により平成24年（2012年）に建立されたものであるが。本年は関係者の念願叶い、同碑の前での開山式挙行となった。



南アルプス大鹿登山口開山式
令和元年6月5日大鹿村大河原（リニア対策課撮影）

2. 村内登山道の現状

ウォルター・ウェストンは、当時の大河原村釜沢から小渋川に沿って広河原を経由し赤石山頂登頂に至ったのであるが、現状小渋川沿いの登山道（次頁村内概略図参照）は小渋川の渡渉を繰返す上級者向けルートであり、最近も遭難事故があったという。これまでも渡渉を伴わずに稜線へ出るルートの開拓が村内山岳関係者有志により試みられているが、実現には至っていない。尚、釜沢から小渋川ルートに向かう林道赤石線は、崩落による復旧作業のため現在通行止めとなっている。

村内でもう一つの登山ルートとして、鳥倉林道から三伏峠へ至るルートがある。鳥倉林道を進むとゲートがあり一般車両はここまでで、登山バスは更に鳥倉登山口まで行くことができ伊那バスが運行している。三伏峠へは、別と同村鹿塩地区の塩川小屋登山口からのルートがあった。このルートは村道沢井線が鹿塩地区河原島橋上で路肩決壊により通行止めとなっており、その先にも崩落があり通行できない状態が続く。「塩川ルートの登山道は、河原島橋が通行可能となって登山道の復旧に取り掛かるとしても、利用できるまでには数年を要する」とみる観光関係者がいる。「鳥倉ルートはゲートから登山口まで林道上を小一時間歩かなければならない。塩川ルートの方がいきなり登山道らしい経路となって山歩きの醍醐味が味わえる。塩川ルートの復旧を切望」という登山者の声も聞かれた。



鳥倉林道ゲート（写真左下）と駐車場 中央は豊口山
登山口まではゲートから更に林道を歩く（ガイドブックでは約50分）必要がある。
（伊那バスは登山口まで運行）
（リニア対策課撮影）

3. 南アルプスとの関わりが深い大鹿村

大鹿村誌によると、安政5年(1858年)大河原村から駿河(静岡県)大井川上流井川の西俣まで、御用材伐出作業のための物資運搬を大河原村の村民が請け負い、釜沢、三伏峠を経て運んだ事例がある。また、明治期には大河原村沢戸亀作氏は赤石山系を越して甲州へ出ようと企図して静岡県田代村、山梨県早川村・新倉村の有志と謀り、下伊那郡下18町村の賛成も取り付けて明治16年に長野県令の新道開削許可を得て工事に着手、同19年には人が通行できる道(これを「甲州街道」と称した)の竣工をみたという(以上 大鹿村誌 中巻 第7章)。

鉄道や高速道路に慣れた現代人には三伏峠を越えて向こうの地域との交流は考えも付かないが、山に入って狩猟・採取を業とする者や柚人にはそうしたルートは自然と見えていたのかもしれない。このように南アルプスに深くかかわった大河原・鹿塩の人々の営みの歴史が偲ばれる。

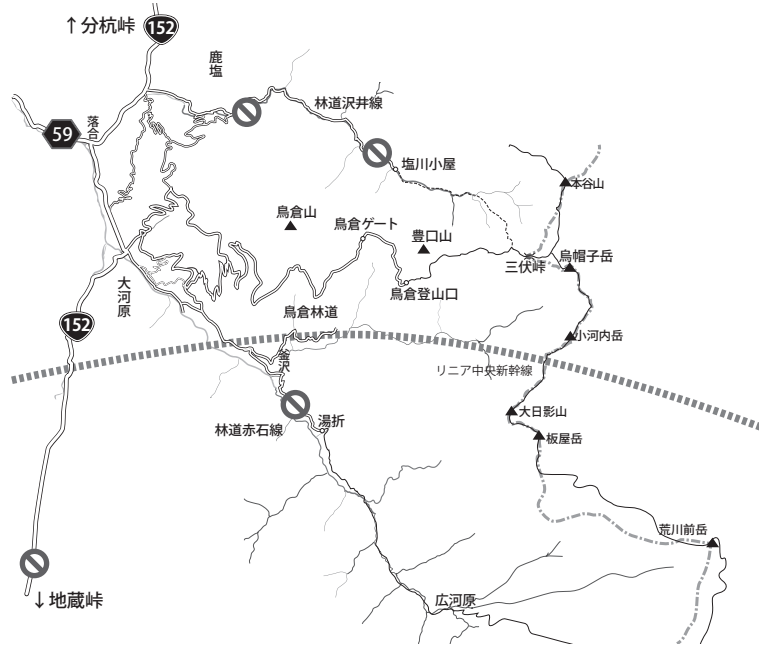
4. 期待と不安が交錯

前項の「釜沢」「西俣」「早川」という地名は今、リニア南アルプストンネル工事に関連して目にするものとなった。リニア時代における南アルプスはどうか、山岳関係者の話では、鳥倉登山バスの遅い便は鳥倉登山口へ14時着であるが、そこから三伏峠に向かうと17時頃の着となり、13時や14時頃の午後早めに山小屋へ入る、という登山の鉄則からすると好ましいことではない。リニア開通後、二次交通を適切に運行することにより時間に余裕を持った登山や日帰り登山が可能になる、ということである。同時に、大勢が押しかけることによる南アルプスの生態系への影響や、山小屋等施設の容量を超えた入込みが危惧されるというオーバーツーリズムの問題は今から指摘されている。

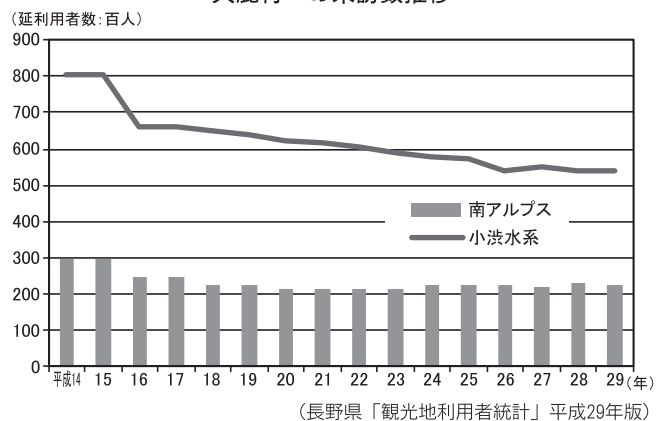
大鹿村ではこれからリニア工事が本格化する。県道松川インター大鹿線を通じ発生土搬送が開始されると、村内の入込客が更に減少するとの危惧はある。

また、村内道路の不通箇所による影響。「地蔵峠は昨年10月から通行止めが続く。片側交互通行もできなかった」という切実な声としてお聞きすることとなった。

大鹿村概略図



大鹿村への来訪数推移



(長野県「観光地利用者統計」平成29年版)

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)